

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100814		
法人名	株式会社福岡総研		
事業所名	鍋島紀水苑さくら		
所在地	佐賀県佐賀市鍋島町蛸久1992-1		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 29日	評価結果市町村受理日	令和6年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和 5 年 12 月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域社会の中で四季、文化を通して感情感性を呼び起こし心豊かな生活の支援を理念としている。器にもこだわり有田焼の源右衛門、深川製磁を使用し、佐賀の文化を取り入れている。午前午後のおやつ時間を大切に、和洋の丁寧なおもてなしを心がけている。広々とした苑庭でレクリエーションやおやつの時間など野外活動が出来ている。食事の面では1日30品目以上の食材を使った献立で見た目にも完食される様に工夫している。日当たり風通し共に大変良く、生活環境にも配慮している。近くには桜並木があり居室から遠目に眺められる。バルーン時期にも近く飛んでくることがある。健常な方は時々ドライブを楽しまれる。苑便りを毎月家族に2ページ送付している(10月224号)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

季節の移ろいを感じることができる木々や草木に囲まれた自然豊かなホームである。日々の暮らしを大切にされた支援がなされており、特に献立や食器類等の行き届いた丁寧な食事は素晴らしく、入居者の方の心身を和ませている。また、一日2回のお茶の時間には、抹茶や季節の菓子などが提供され、心豊かな時間を過ごされている。日当たりや風通しも良く、明るい雰囲気になっており、職員さんとのコミュニケーションは良好である。入居者一人ひとりに応じた個別の支援がなされていて、入居者や家族の満足度も高い。医療連携、心身の健康管理に努められており入居者は安心して過ごされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿ったケアが常にできるように玄関、ホールに理念を掲げ全職員で共有し実践している。職員採用時に理念について話をしている。	ホームの理念が玄関ホールに掲げられている。職員一人ひとりが事業所の理念を理解し、日々入居者と関わる中で意識し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域在住の職員がいて地域の方との交流がしやすい環境にある。お野菜の差し入れあり。	日頃から地域に開かれたホームでありたいと自治会に加入し門戸を開けておられるが、最近ではコロナ禍もあり地域活動への参加ができていない。	近くに幼稚園や学校があり、手紙での交流など、対面は難しくとも、少しずつふれあい機会を増やしていかれることに、期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で自治会総会、クリスマス会等の行事が中止となり、再開を期待している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の推進会議には、おたっしや本舗、地域役員、ご家族等参加頂き入居者との交流や意見交換を行っている。	自治会長や地域包括支援センター、民生委員など外部の人の目を通して、情報交換だけでなく、具体的な改善課題を話し合うことができている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	おたっしや本舗様からの要望には極力応えている。日頃から入居者の問い合わせを頂き、現在も入居された方は家族共々満足されている。	地域包括支援センターからは、ホームの状況や取り組みを発信したり、制度についての相談に対応してもらっていることが多い。お互いに信頼、協力関係が築くことができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は新人の入居時等臨機応変に対応している。身体拘束マニュアルを参考にしながら勉強会を行っている。身体拘束の適正化の為の指針に沿って年2回勉強会を行っている。	現在、身体拘束対象者はいない。行動制限や言葉による制限などについては、毎月の勉強会を行い、人権を尊重した支援を心掛けている。気になる点は、職員同士でも声掛けして改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月スタッフ会議、勉強会で取り上げ、意見交換をしている。又、研修会の参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に成年後見制度利用者があり職員は概ね理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をしている。又、改定時は丁寧に説明をし、同意書を頂いている。解約は利用者の申し出に沿って行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族とは面会時に意見を聞いたり、相談に乗ったり、話し合いをしている。開設当初から毎月写真をメインにした苑便りを送付し、状況をお知らせしている。10月号(24号)	創立当初からホームのお便りを毎月発行しており、家族は楽しみにされている。家族との面会も随時行われ、職員とのコミュニケーションも良好である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議に出席し意見を聞き添うようにしている。代表者は職員の職務姿勢に感謝し、職員の意見を尊重している。	職員間の風通しも良く、運営に関しての意見も言いやすい雰囲気である。職員の意見や気づきを吸い上げ、より良い運営に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は利用者家族と信頼関係を築き職員がケアし易い環境を整える事を常に考えている。1時間の昼休みはスタッフルームソファで休ませ午後の仕事し易い様に気遣っている。常常定刻に帰宅するように声掛けし、殆ど守られている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会にはいつでも参加できるように促している。参加費は内容に応じて助成している。リモートでの研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本部の交流研修会があり、希望職員が順番に他施設に研修に行き、良かった点を取り入れている。コロナ禍により中断中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から意見、要望を聞きとり、安心、信頼が保てる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族の意向や要望を聞き、対応についての確認をして、負担の軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向要望を確認し、収集分析した情報、原案を検討し要望に沿えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、片付け、洗濯物干し、たたみ等自分で出来る事は時間がかかってもして頂いている。時にレクリエーションのリーダーにもなって頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により現在は玄関でマスク着用して頂き面会して頂いている。誕生日面会等特別な時は事務所にて面会、お茶等の提供をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で使っていた馴染みの物を持って来て頂いている。又、家族や知人が面会に来やすい様な雰囲気作りをしている。	家族との面会時には、必要に応じて職員が会話の橋渡しをしたり、日頃の状況を伝えている。馴染みの関係性の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で問題がある時は職員が間に入り、他の事をして頂いたり、気分転換を図ったり席替え当臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為に退去されても見舞いに行ったり、家族が来苑されたりと関係性を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者、家族との対話を大切に、意向や思いの把握に努めている。意思表示が困難な場合は日頃の表情、家族の話から汲み取るようにしている。	職員全員が一人ひとりの思いや意向について関心を持ち本人の思いに沿えるよう取り組んでいる。意思の表出が困難な入居者については表情や態度で把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族から話を伺い、これまでの生活についての把握に努めている。又、生活歴シートを活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者と個別に関わる時間を確保している。又、勤務日以外ののことは記録やスタッフへの聞き取りで把握出来る様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のスタッフ会議で入居者の記録ノートを見ながら情報交換し、モニタリングを行っている。事前に本人、家族の意向を聞き、主治医等関係機関の意見を参考にした介護計画書を作成している。	アセスメントとモニタリングを繰り返しながら介護計画を臨機応変に見直している。入居者の暮らしを反映したものになるよう職員全体で確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の行動記録にならないようにケアの実践、結果、気づきを記入し共有できるようにスタッフ会議等で周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティア、往診クリニックDr、スタッフさんによるコンサートでは利用者を楽しい時間を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に1度の推進会議に地域の方に参加して頂き交流を図っている。地域の災害担当の方には、災害時のアドバイスを頂いたり、対応等の相談に乗って頂いている。馴染みの関係が出来ていて心強い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族が希望する、かかりつけ医の受診が可能であり、又往診医療機関の選択が出来、変更可能です。	協力医療機関からの往診を受けている方が多いが、希望する医療機関への受診も可能である。ホームとして医療情報提供などの支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックを基本に僅かな変化も見逃さないように気配りし、少しの問題点でも看護師や医師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診の医師や、薬剤師とは日頃から話しやすい関係にあり、相談し易く家族も安心されている。入院時には面会に行き医師、看護師と話をし、早期退院を促す。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	数名の看取り経験があり、職員も理解できている。	病状の段階に応じて意向の確認を行い、本人や家族の希望に添った支援をされている。ホームでの看取りを希望される場合は職員間の情報共有に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車通報訓練は消防訓練時に全員行っている。救急車対応も経験あり、その都度皆で話し合いスムーズに対応できるように準備の確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、特に夜勤者の対応を重点的にしている。ご近所、地域住民との交流もあり災害時の協力をお願いしている。エリアメール受信時はご家族に協力をお願いしている。居室ホールは雨戸を設置、事務所は強化ガラスを付けている。	年2回、日中・夜間想定での避難訓練を実施している。全員分のヘルメット、十分な備蓄がなされ、職員・入居者ともに防災への意識付けを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症であってもこちらの言う事は分かっていると思いながらの会話に努めている。お年寄りには人生にプライドを持たれている事を意識しながら対応している。	入浴や排泄の介助も本人のできる部分を大切に支援されている。援助が必要な時も、まずは本人の気持ちを最優先し、さりげない声掛けを行うなど気配りができている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との会話の中で希望や思いを聞き出し本心を見極めながら出来るだけ沿ったケアを心がけている。(個別レクリエーション、服装)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者だけを優先にすると、どうしても無理がいき職員の負担も大きくなる為、実務をこなしながら並行して本人の希望に沿った生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お出かけや、イベント時は服を選んで貰い、アクセサリーやスカーフなどでおしゃれを楽しんで貰っている。無理強いはしないように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つであり、健康にも影響がある為、見た目と栄養の両面を考慮しながら提供している。器にはこだわりがあり、利用者は喜ばれている。準備、片付け等できる方にはお願いしている。	有田や伊万里の陶器や漆器など美しい食器に盛り付けられた料理は、栄養や多種の食材を使用するなど、細やかに配慮され、提供されている。入居者の満足度は非常に高く、食欲も旺盛で喜ばれている。盛り付けや片付けなどは、無理のない範囲で入居者もお手伝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面では1日30品目、目安の献立で完食できる量を提供している。水分補給は日々充分に行っていて、特に病気の時は量の記録をして医師に報告している。入居時から栄養状態が改善されている。アルカリイオン水提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後はそれぞれに合った歯ブラシを使用し、口腔ケアを行っている。2週間に1回の歯科往診可能。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表を見ながら排泄パターンを把握し促す。夜間頻尿者はポータブルトイレを使用して貰っている。	入居者の排泄パターンをチェック表で把握している。適切な声掛けによりほとんどの方が日中はトイレ利用ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	殆どがカマグを服用されているが、他には毎日昼食時ヨーグルトを提供している。マイナス時が続くと牛乳、ヨーグルト、繊維質食物を多く提供している。おなか、お尻のマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本午前中だが、事情により午後に変更有。入浴拒否の場合は時間、日にちを変更している。	毎日、午前中に入浴されるが、受診や本人の気分で午後になることもある。柔軟な対応が可能である。入浴拒否される場合も足浴や清拭などで対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的にはマイペースで過ごされている。居室で休まれることもある。昼夜逆転しないように気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	届いた薬の内容をチェックし、先ず1日分を食堂に置き、次に1週間分を事務所のケース棚に保管する。名前日付けを確認し手渡し、飲みまわすのを確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞、雑誌等はいつでも見られるようにホールのテーブル、カウンターに置いている。パズル、編み物、折り紙等好きな事をされる時間を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	好天気の日には花見、森林公園、川上鯉のぼり大和道の駅等、ドライブを楽しまれている。(苑便りで報告)家族と散歩、家の行事等で外出される。	コロナ禍があり、以前よりも外出の機会は減少しているが、気候のよい日は広い庭を散策したり、ドライブでコスモス見学に行くなどして、季節の変化を感じて頂けるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は基本的には禁止しているが、道の駅等で買い物する時は、おやつ代として提供し各々購入して貰っている。イベントの買い物同伴の時は支払い確認をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯の所持は可能だが、家族の要望もあり、時間制限をしている。それ以外では施設から家族に電話をする時に時々本人と代わり話して貰う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールの壁を入居者と共に作成した折り紙や、お飾りで演出していて季節感を取り入れる工夫をしている。屋内はとても明るく、風通し、日当たりもよく、洗濯物、寝具、調理器具等日干しが出来、衛生的です。	毎月、季節感あふれる飾りを入居者と作成し、共有スペースに飾られている。広い窓からは明るい光が差し込み、日当たりも良好である。におい等にも気を配られ、居心地よく過ごせるよう配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本、気の合った人同士の席決めをしている。レクレーション時は1つのテーブルに集まって貰いゲーム、トランプ、かるた等皆さんで楽しまれている。窓際カウンターでお茶を楽しめる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に相談し、使い慣れた物などを持参されている。ソファ、テーブル、椅子等。	使い慣れた家具や好みの椅子などを居室に持ち込まれる方もいる。写真や思い出の品を飾るなど本人にとって居心地が良いことを最優先とされている。また温度や換気にも配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂などは分かり易く表示し、居室入り口には本人と分かるような目印をしている。(大きい赤いリボンや花など)		